

# まいたうんTOPICS



▲町交通安全協会主催の「第31回 一日交通安全キャンペーン」が行われました。開会式では今野交通安全協会会長から「町民のみなさんにはこの取り組みをきっかけに交通安全の意識をより高めてほしい」と挨拶があり、その後、参加者約70名による旗の波街頭啓発などが行われました。(8月1日/役場前)



▲「親子盆踊り」が開催されました。参加者たちは大きな輪を作り、太鼓の音に合わせて楽しげに踊っていました。また、会場には出店もあり、かき氷やわたあめを手にしながらかしむ方も多くみられました。  
(8月15日/役場前駐車場)

## 第25期農業委員会委員改選

農業委員会委員の改選により、7月20日に、町長から第25期農業委員に辞令書が交付されました。

その後、第1回総会が開催され、会長に位田勝氏、職務代理に石井文彦氏が選任されました。なお、任期は令和5年7月20日から令和8年7月19日までの3年間です。

第25期 浦臼町農業委員会委員名簿

(地区別)

地区	役職	氏名
鶴沼地区	会長	位田 勝
	職務代理	石井 文彦
	地区委員長	折坂 義一
	地区副委員長	則本 洋希
浦臼地区	地区委員長	石橋 和博
	地区副委員長	土橋 直生
	委員	竹内 富美代
		西島 一洋
		江上 教之
晩生内地区	地区委員長	高田 輝雄
	地区副委員長	古橋 優一
	委員	鎌田 和久等 佐藤 等



# 友成邸 前編

## 浦臼町の入植者 友成士寿太郎のお屋敷

浦臼町で最も古い建物の一つである赤い屋根が特徴の大きなお屋敷は、徳島県羽ノ浦村（現：阿南市羽ノ浦町）で助役を務めていた友成士寿太郎が3年かけて完成させたものです。詳しいことは下で説明しますが、棟梁を含めた人材や建物の材料を徳島県から運んできた、とても手間とお金がかかっている建物となります。なので本州の建物の名残がちらほらと見ることができます。母家の他に、敷地内には使用人が住んでいたと思われる東側の納屋と北側の納屋があります。浦臼町開拓の歴史を担う広いお屋敷で友成家がどんな暮らしをしていたのか、とても気になりますね…。



【構造・規模】  
木造 平家（一部2階）  
【竣工年】  
明治36年



内部の様子



新築の住宅を背景に記念写真（明治36年）

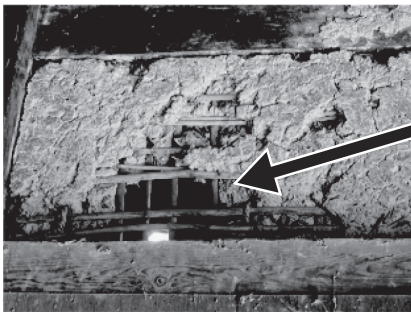


百年記念碑

▲新築の友成邸

## || 四国から全部運んできた！？

前述したように友成邸は建物の材料を徳島県から運んで来ています。その証拠に、土塗り壁の内部の木舞という部分に北海道では生えない竹が使われていることがわかります。（館や笹島邸は葺が使われています。竹を使うのが本来の土塗り壁です。）棟梁も徳島県から連れてきています。建物の様式は北海道で他にないほどの「庄屋づくり」「奉行所づくり」とも言われているとても貴重な建物です。徳島から北海道まで直線距離で1160km、とんでもないお金と費用がかかっていることがわかります。友成士寿太郎の「本物」へのこだわりを感じますね！



◀土塗り壁

内部の木舞が竹で編まれていることがわかる。

## || 使用人にも質のいい部屋を

友成邸は納屋にもこだわりがみられます。当時の納屋や使用人の部屋は壁は板を打ち付けただけというバラック的なものが一般的だったと考えられます。しかし、友成邸の納屋は違います！使用人の部屋の内装は母家と同じ、土塗り壁の上に漆喰仕上げされており、納屋も土塗り壁となっています。当然お金がかかりますが、それだけ友成家の勢いというか格式高さを伺えます。しっかりした作りだからこそ、老朽化はあれど今も残っているのですね！



▲北側の納屋



▲使用人の居室

## 成形された梁▶

当時の梁材は丸太の凹凸がついたまま使われることが多かったが友成邸は製材されている。



こんにちは！  
札幌市立大学大学院の三角<sup>みかど</sup>颯音と申します。なんだかこの建物紹介の記事を書くのがすごく久しぶりに感じます…。みなさまいかがお過ごしでしょうか。友成邸は歴史も建物も深すぎて1月だけでは紹介しきれず…再来月も友成邸の話になります！先々月で浦臼町の建物調査が終わったのでこの記事の題材も出揃い、ゴールが見えてきたような感覚です。最後まで走り抜けますのでよろしくお願い致します！最近とっても暑くなっています。私もかなり夏バテ気味です。どうか熱中症には十分お気をつけてお過ごしください！